

## 和光市国際化推進懇話会中間報告

日本経済の先行きが依然として不透明である今、和光市でも施策、業務を見直し、効率的に行うことは急務である。国際化政策においてもこれまでの事業にとらわれることなく新たな事業も視野に入れた論議検討を諮問され、3回にわたり論議してきた。和光市における国際化施策は以下の3点に集約される。

1. ロングビュー市との姉妹都市関連事業
2. 市民の意識を高めることを目的とする「内なる国際化」
3. 国際化ネットワークの発展

### 1. ロングビュー市との姉妹都市関連事業

3年のブランクの後、実施に至った16年の市民派遣事業は実施人数ぎりぎり、ここ最近何年かも減少傾向にあることから、今後増加することはないと思われる。市民派遣を行うようになってから9年がたち、一定人数の市民がロングビュー市を訪問し、訪問した市民を中心に国際化を推進するボランティアグループが発足し活動を継続しているなど、この事業は評価できるものの今後に向けては更なる努力が必要である。ただしロングビュー市との交流は、今後も中学生は継続であり、教育においては成果を上げている。

市民派遣の今後については、3つの考え方があり、結論に至っていない。

(1) 意義のある活動であるので継続する。課題は、自己負担の金額と、広報の仕方、行く市民の精鋭化等考えられるのでこれを改善する。

(2) 何かの記念行事、イベントの時派遣する。毎年行く必要はない。2～3年に1回くらいで考える。

(3) 市民の盛り上がりのない活動は意味がないので、一度姉妹都市提携の経緯を含め、続ける意義を考え直す良い機会であると思う。市民派遣を毎年に行わない事による、ロングビュー市との交流事業として、事務局が「ロングビュー・ウィーク」を考えているが、そのような活動を通し、ロングビュー市に対する市民の理解を深め、その後市民派遣を実施する。

交流が双方向に至っていない点を踏まえ、ロングビュー市にたいし和光市のPRを含め働きかけをし、和光市に来てもらう努力をする事も大事である。

### 2. 内なる国際化

市民の国際化の意識を高めるという意味の「内なる国際化」は、難しい問題である。一長一短には行かない問題なので市民と外国人の接する機会をなるべくたくさん持つ。その機会の一つとして、現在県が実施し、市が仲介しているワンナイトステイは市内の

外国人を対象としていないが、これを市内の外国人を対象とした市独自のワンナイトステイを実施する。公民館活動等の情報を流すなど接する機会を増やす努力をする。

### 3. 国際化ネットワークの発展

国際化ネットワークは、発足時は「各団体がお互いを知る交流の場」として認識し、活動は徐々に発展させていくということで同意した。現在の活動は、市民まつりでの国際化PRのみであるが、この活動は非常にうまく機能しているのでこのまま継続する。本来の情報交換の機能については、事務局の国際交流員が担当となり、ネット上に参加団体が自由に参加、書き込みができ、資料も出し入れ自由なネットワークを構築し、情報交換をする。事務局が考えている新規事業にもネットワークとして積極的に参加する。